



道の駅



まちなか

道の駅 良寛の里

12月 わし

通信

vol.216号



2022年12月発行



道の駅 良寛の里わし

NPO法人和島夢来考房

良寛と貞心尼
出逢いの地

令和4年 年末のご挨拶

本年も残すところあと僅かとなりました。今年も道の駅良寛の里わしまでご利用いただき誠にありがとうございました。

私共の「NPO法人和島夢来考房」は地域住民と共に地域の活性化や地場産業の振興などに寄与することを目的として平成16年に設立されました。苦しい時ほど原点回帰により方向を誤らないようにしてまいります。

現在、次世代に繋ぐ新しい事業の構築にチャレンジしており、来年は、さらにより良いサービスが提供できるようスタッフ一同努めてまいります。令和5年がみなさまにとって良い一年になりますようお願いしております。

良い年をお迎えください。 道の駅良寛の里わし 駅長 山田 勝



年末年始休業のお知らせ

地域交流センターもてなし家

2022.12/29(木)
～ 2023.1/3(火)

良寛の里美術館・菊盛記念美術館

2022.12/26(月)
～ 2023.1/5(木)

＊展示替え・年末年始休館

【期間限定】
こしひかり
しぼりたて生原酒1.8L 2,860円(税込)
720ml 1,540円(税込)清酒 和楽互尊
(純米吟醸)
720ml 1,980円(税込)純良焼酎 玉文福
720ml 859円(税込)

池浦酒造

そば

特上手まりそば
250円(税込)新そば粉(1kg)
1,400円(税込)長岡産
こがねもち 100%

餅

こがね餅 よもぎ餅・豆餅
550円(税込) 600円(税込)

わしもの地酒

雪解け水を
想わせる
サラリとした
飲み口

久須美酒造

清酒 清泉
(吟醸酒) 720ml
1,100円(税込)清酒 夏子物語
(純米吟醸)
720ml 1,630円(税込)長岡生まれの
クラフトビール

[HEISEI BREWING]

越の雲海 726円(税込)

不撓不屈 770円(税込)

魚沼蕎麦 715円(税込)

常在戦場 693円(税込)

臥龍長生 693円(税込)



風土が生んだ個性派ビール

忘年会、年末のご挨拶、お年賀、お年賀、お年賀

もてなし家

冬の贈り物
特集

12月は人の集まる
機会が増えますね。

そんなときの
贈り物・手土産に
おもてなし商品を
ご用意しました。

甘酒

バリエーション
ゆたかな甘酒！

〔峰村醸造〕
甘酒各種



1,080円(税込) 1,280円(税込)

麴だけの
やさしい甘み

〔八海醸造〕
麴だけでつくった
あまざけ
870円(税込)

ご自宅や職場まで
電話1本でお届け！

配達エリア 和島地域内

たい焼き

小倉あん
クリーム
焼き芋あん

外はパリ！
中はモチ！

1個 170円(税込)



焼きいも

「紅はるか」使用

大(300g以上) 450円(税込)

中(220g以上) 350円(税込)

小(150g以上) 250円(税込)



【テイクアウト・お食事メニュー】すべて税込

もつ煮込み(単品) 650円 だんご汁 400円

カレーライス 500円 けんさ焼 200円

親子丼 800円 良寛むすび 200円

ご注文はお電話で

受付時間
前日15:00まで。当日11:00より配達可能です。

配達料
ご注文合計 1,000円以上／無料
ご注文合計 1,000円未満／300円

道の駅良寛の里わし

もてなし家・ふみ堂・黄金のキッチン・ふみ号

営業時間
9:00～17:00
お食事
10:00～15:00

〒949-4525
長岡市島崎 5713-2
☎ 0258-41-8110

Instagram Facebook

最新情報は
SNSで！

時間をたのしむ
美術館

良寛の里美術館

菊盛記念美術館

NewsLetter
2022
12月号

良寛をめぐる人びとと良寛の魅力

- 良寛を敬愛した文人・画人 - (後期)

会期：令和4年10/8(土)～12/25(日)

入館料：500円

会場：良寛の里美術館 時間：9:00～17:00

開催中

NEW

良寛の遺墨はじめ、良寛を敬愛した文人・画人たちの作品やその思いなどから、良寛の魅力により深く触れていただけます。

< 展示作品 >

・良寛

・貞心尼

・山本以南、由之、泰樹、泰世

・富川潤一、こしの千涯、津田青楓

高村真夫、五十嵐晴徳

・牧野忠精、河井継之助、小林虎三郎

三島億二郎 ほか

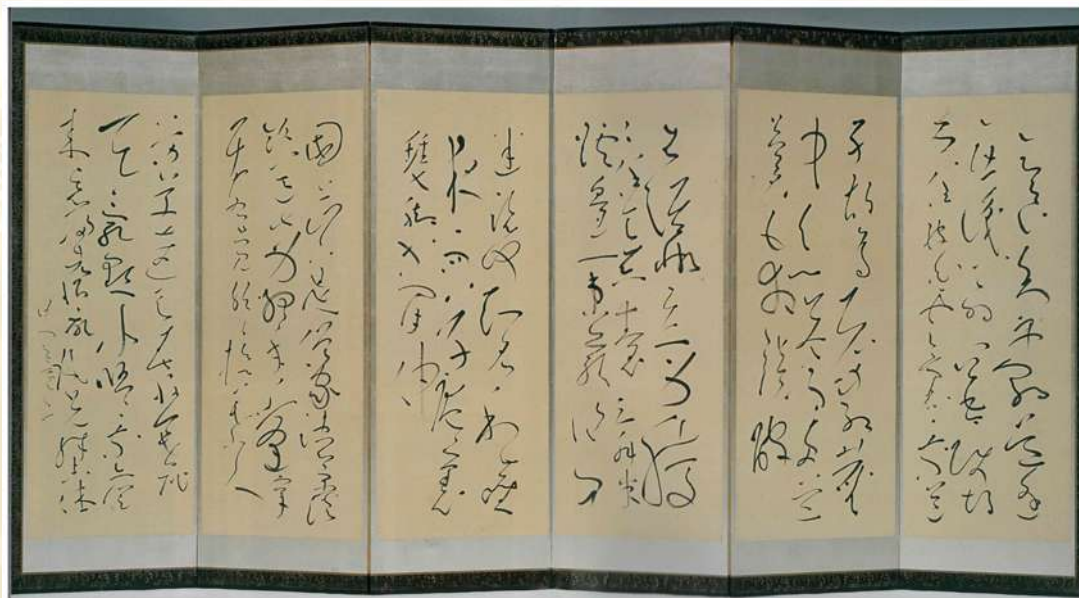
12月より、貞心尼の作品目録が登場します。お手持ちのスマートフォンでQRコードで読み込めば、さらに詳しい解説を読むことができます。

徹底解説！

『六曲半双屏風』

今回は、当館所蔵の『六曲半双屏風』の中で、良寛の真骨頂とも言われる第三扇・第四扇の漢詩について、詳しく解説いたします。

この作品は、国上山の麓・五合庵での暮らしを詠んだ漢詩で、乙子庵時代に書きおろしたものとわれています。



第六扇

第五扇

第四扇

第三扇

第二扇

第一扇

「良寛さん」と呼ばれ、今も多くの人々に愛され続ける良寛(1758～1831)は、お金や名声にとらわれない生活を送った托鉢僧でした。清貧の中で、生きとし生けるものに慈愛の心を注ぎ、子ども達と手まりをついて戯れ、友と語り、和歌や漢詩など芸術にいそしみました。また、仏教者としても菩薩行を実践した稀有な人でした。

その人間性を表出した書は、見る者の心にあたたかさと感動を与えてくれます。



鑑賞のポイント

・使い込んだ筆を大胆に用い、気迫が込められている。右から左へと筆が大きく振れながら、上下が見事にそろっている。

・筆致に緩急の妙があり、見る人をそのリズムに引き入れて止まない。また右の扇は六字八字、七字、左の扇は七字、五字、五字と字数に違いがありながら、見事な均衡が保たれている。

参考文献：別冊宝島

「良寛の心が豊かになる”生き方”」

【現代語訳】

誰かが悟りについて質問したら言いましょう。メンツだとか利益などという塵が、(この庵の)どこにあるのですかと。雨が降る夜、草庵の中で二本の足をのんびりと伸ばしているだけです。

誰か問わん迷悟の跡 何ぞ知らん名利の塵
夜雨草庵の裏 雙脚等間に伸ばす。

【第四扇・原文】

誰問迷悟跡 何知名利塵
夜雨草庵裏 雙脚等閒伸

【読み下し文】

一生立身出世のことには気が進まず、気ままに自然のままにその日を過ごしている。袋の中には三升の米があり、炉端には一束の薪、という暮らしぶりだ。

【現代語訳】

生立身を立つるに懶く 騰々として天真に任す 囊中三升の米 炉辺一束の薪。

【第三扇・原文】

生涯懶立身 騰々任天真
囊中三升米 爐邊一束薪

【読み下し文】

良寛の里美術館 菊盛記念美術館
和らぎ家 歴史民俗資料館 茶室指月亭

〒949-4525 長岡市島崎 3938
☎ 0258-74-3700 開館時間：9:00～17:00

休館日

もてなし家
良寛の里美術館
菊盛記念美術館

12/5(月)